春の火災予防運動

期間：3月1日～3月7日

火災予防かわら版

令和２年度発刊
石巻地区広域行政事務組合
消防本部予防課

本紙に関するお問い合わせはこちらまで
TEL　95-7167
FAX　94-4637

春の火災予防運動が始まります

3月1日から7日まで、全国一斉に「春の火災予防運動」が実施されます。

この運動は、春先は空気が乾燥していることに加え、風の強い日が多くなることから、火災予防の意識を高めていただくことにより、火災の発生を防止し、火災から尊い命と貴重な財産を守ることを目的に毎年実施しています。

火の取扱いには十分注意し、日ごろから火の用心を心がけましょう。

昨年秋の火災予防運動期間中の様子
【大型店舗前での街頭広報】

石巻広域管内（石巻市・東松島市・女川町）令和2年の火災件数

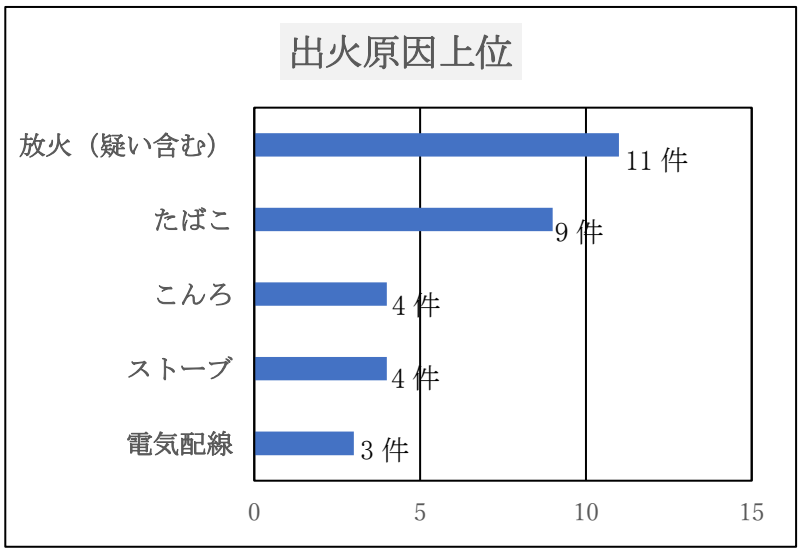
石巻広域管内では令和2年1月1日から12月31日までの1年間で65件の火災が発生し、令和元年の火災件数48件を17件上回りました。

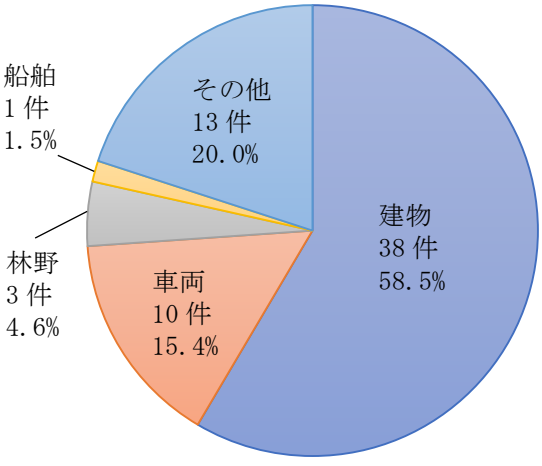
火災種別の割合としては建物火災が38件で全体の約6割を占めており、そのうち住宅火災が21件とこちらも昨年と比べ9件の増加となりました。

また、建物火災以外では、車両火災10件、林野火災3件、船舶火災1件、枯草などを焼いた、その他火災13件となっています。

出火原因として多いのが「放火（疑い含む）」11件、次いで「たばこ」9件、「こんろ」、「ストーブ」4件です。

これからは暖かくなりますが、火の取扱いには今一度注意をし火の用心を心がけましょう。





放火対策について

毎年、放火による火災が出火原因の上位となっています。放火を防ぐために、「放火されない、放火させない環境づくり」に務めることが大切です。

・家の周りには、燃えやすい物を置かないようにしましょう。
・ゴミは指定された日時、場所に出しましょう。
・車やバイクなどのボディーカバーは、燃えにくいものを使いましょう。
・地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう。

コロナ対策に潜む火災のリスク

新型コロナウイルス感染症予防として、広く使われるようになった飛沫防止用の透明シートや、手指に使う消毒用アルコールに、火災につながる危険が潜んでいます。シートは燃えやすい性質があり、飛沫防止シートの付近では火気の使用、喫煙は決してしないでください。手指の消毒用アルコールも、火気の近くでは使用しない、直射日光が当たったり高温になったりする車内などで保管しない、詰め替えは換気の良い場所で行うなど、取扱いには十分注意しましょう。

住宅防火　いのちを守る　7つのポイント

3つの習慣

・寝たばこは、絶対にやめる。
・ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
・ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

・逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
・寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
・火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
・お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

設置しましょう！住宅用火災警報器

住宅用火災警報器は熱や煙を検知して警報音で知らせてくれる機器です。火災の早期発見に効果があり、逃げ遅れによる死者の発生防止に繋がります。警報器は、家電製品と同じように故障したりすることがありますが、見た目には分かりません。

実際に火災がおきた時に、きちんと作動するよう、定期的な点検と日頃のお手入れが必要です。

10年を目安に交換が必要です

住宅用火災警報器は古くなると、電池等の寿命により、交換が必要となります。経年劣化した警報器は火災を感知しなくなることがあるため、火災を感知できなくなる前に交換しましょう。交換の目安は、10年です。

点検方法

ボタンを押す、又はひもを引いて作動状況を確認します。

点検時に音がならない場合は電池切れや故障が考えられます。

日頃からお手入れをしましょう

住宅用火災警報器は長い間取り付けていると、感知部分にほこりが付いたり、台所に設置してある場合は油や煙で汚れて、火災を感知しにくくなることがあります。いざというときに効果を発揮するためにも、定期的にお手入れをしましょう。

■お手入れ方法

ほこり、小さな虫などは誤作動の原因にもなるので固く絞った布で軽くふき取ってください。

設置場所

◆寝室・階段

住宅火災で亡くなる方の多くは、逃げ遅れによるものです。そのため、寝ている時に火災に気付くよう寝室への設置が必要となります。

また、煙は階段を通じて上階へ広がることから、上階に寝室がある場合は煙が充満する前に警報を発して避難を促すため階段への設置も義務付けられています。

◆台所

住宅火災では、こんろからの出火も多く、火災発生の危険が高い台所にも設置が必要です。

◆設置する警報器の種類

煙式を設置してください。ただし、台所には、熱式を設置することができます。

ご家庭に住宅用消火器を

こんろ、たばこ、ストーブなどの原因で住宅火災が多く発生しています。消火器は初期消火の道具として非常に効果的で、奏功事例も多数寄せられています。消火器は小型で軽量な住宅用消火器や片手で簡単に使用できるエアゾール式簡易消火具があります。火災から大切な財産や生命を守るため、ご家庭に消火器を設置しましょう。

消火器の使い方

使い方は、とても簡単！３つの動作で誰にでも使うことができます。

消火器の点検

たとえ使用期限内であっても、いざという時に不具合等で使えなければ意味がありません。ご購入されましたら、半年に一回程度、異常がないかチェックしましょう。

このような状態の消火器は絶対に使用せずに販売店等に相談しましょう。

消火器の奏功事例

76歳女性が天ぷらをしていたところ、電話がかかってきました。「すぐ切れば…」と思い、電話をとりました。ほんの数分目を離したすきに、天ぷら鍋から火の手が！

不幸中の幸い、この女性は地域の防災訓練で消火器を使用したことがあったので。慌てず落ち着いて、消火活動を行えました。女性に怪我はなく、家も燃えずにすみました。

悪徳な消火器の訪問販売や点検にご注意を!!

消防署員や、公的機関の委託業者を装い、悪質な高額料金で消火器を販売する詐欺が横行しています。消防署員が消火器を販売することはありません。また、販売を依頼することもありません。消火器は、一般家庭に設置義務はありません。万が一、購入してしまった場合は、クーリングオフの対象となりますので、消費者センターにご相談ください。

山火事にご注意ください

貴重な森林を守るため

日本は国土の約７割が森林であり、森林は国土の保全、水源のかん養など私達の生活に大切な役割をはたしています。ところが、森林は一旦火災などで失われると、その大切な機能が回復するまでには、何十年もの年月と多大なコストを要することとなります。

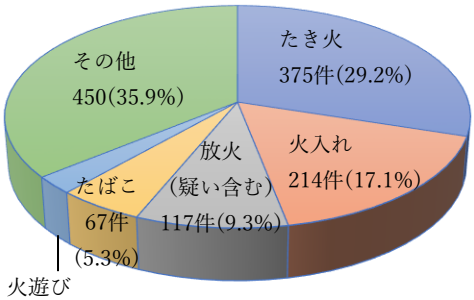
山火事のほとんどは、人間の不注意によって起きています。このことは、私達一人ひとりが火の取扱いを注意することで山火事を未然に防止できるということでもあります。

山火事の季節的な特徴

山火事の約７割が冬から春（１月～５月）にかけて集中しています。これは、冬は森林内に落葉が積もって燃えやすい状態になっていることや風が強いこと、特に太平洋側は乾燥した状態になるといった自然条件が重なること、また、春先は、行楽や山菜取りのために山に入る人が増加するほか、農作業に由来する枯草焼きなどが山林に飛び火することも原因となっています。

出火の原因

発生した林野火災のうち、原因があきらかなものについてみれば、「たき火」が２９．２％で最も高く、次いで立木、雑草を焼却する「火入れ」、「放火（疑い含む）」、「たばこ」となっています。日本の林野火災は、そのほとんどが人間の不注意などによるものとなっています。一方、落雷などの自然現象によるものは稀です。



資料：消防庁統計資料に基づく

原因別出火件数(H26～H30 年の平均)

野外焼却は
法律で禁止されています

山火事を防ぎましょう

・枯草等燃えやすい物がある場所では、たき火をしないこと。
・たき火等火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること。
・強風時及び乾燥時には、たき火、火入れをしないこと。
・たばこの吸い殻は必ず消すとともに、投げ捨てないこと。
・火遊びはしないこと。

地震に備えて家具転倒防止対策をしよう！

家具転倒防止の必要性

近年発生している大きな地震では、家具等の転倒、落下により怪我をする方が多く見受けられます。

気象庁発表の震度階級関連解説表によると、震度５弱で「家具が移動することがある」とあり、震度４でも「座りの悪い置物が倒れることがある」と記載されています。たとえ建物が無事でも、家具が転倒するとその下敷きになって怪我をしたり、室内が散乱することにより逃げ遅れてしまったりする場合があります。

特に、背の高い家具や重量のある家電製品は要注意です。

家具の転倒・落下防止対策を万全にして、家庭での被害を防ぎましょう。

転倒防止対策設置のポイント

・部屋に固定する

L 字金具やチェーンベルト、突っ張り棒で、壁・柱・横木・鴨居・天井と家具を固定するタイプがあります。家具の転倒防止器具を取り付けて家具を固定するためには、設置場所と家具の両方に十分な強度が必要ですので、　家具や部屋の状況をよく確認して取り付けましょう。

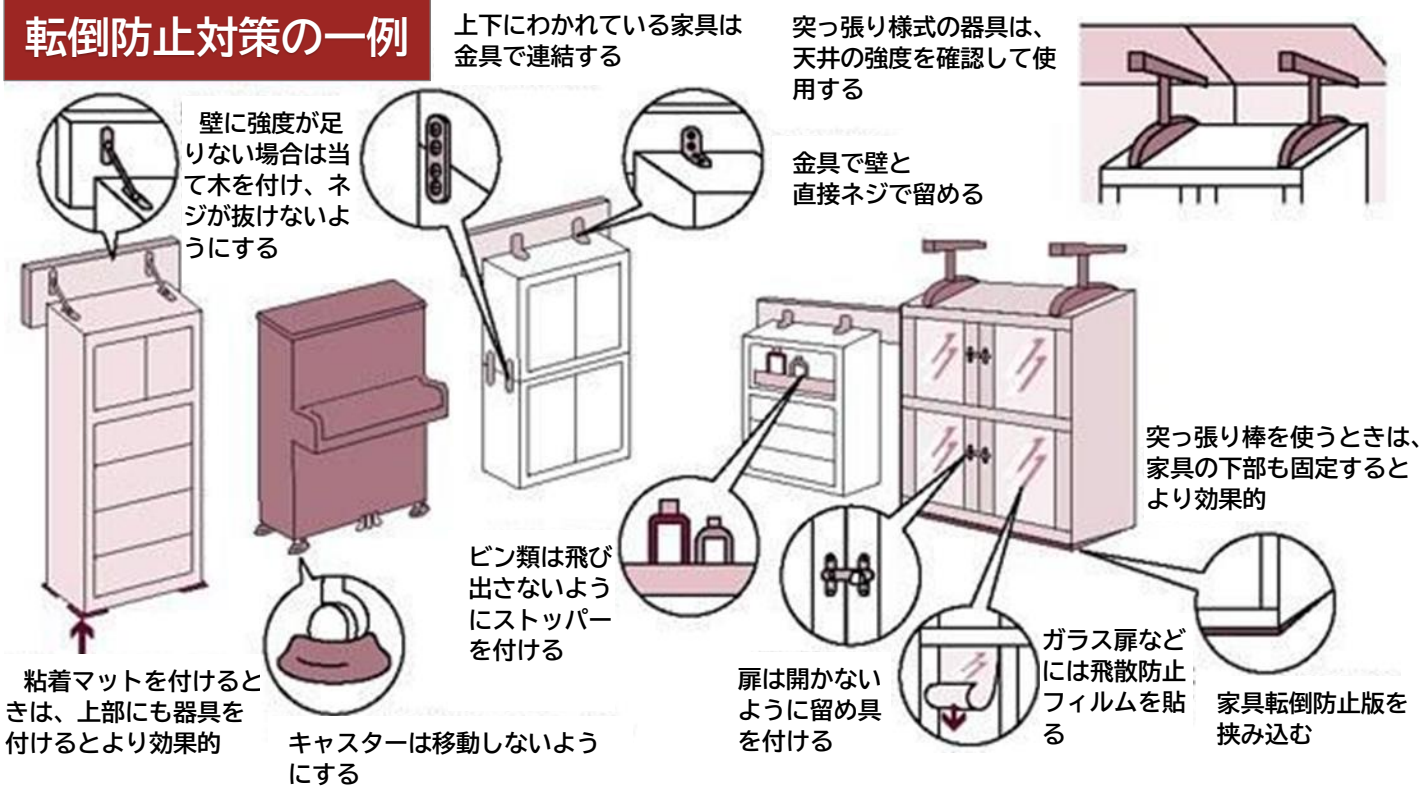
・家具と家具を固定する

上下に積み重ねて使う家具は、上部の家具を壁や柱に固定しても、地震で下部の家具が揺れるとずれてしまい、前にせり出して転倒する危険がありますので、重ねた家具の側面を金具で連結し、さらに上部の家具を壁等に固定しましょう。

・扉の開放を防止する

開き戸タイプの家具には、扉が地震で開かないよう留め具を付けましょう。さらに、収納物の落下を防ぐために、棚板に滑り止めの布巾やゴムシートを敷いたり、棚の前面に板や棒による飛び出し防止枠を付けると安心です。また、ガラス扉には、万が一割れても破片が飛び散らないよう、飛散防止フィルムを貼りましょう。

・家具の重心を下げる

重いものほど下に入れることが家具を倒れにくくするための基本です。例えば、食器棚では陶器やガラスでできた大きくて重いもの、本棚では事典などの重い本を下段に入れると、家具全体の重心が下がるので倒れにくくなります。また、重いものが高い位置から落ちてくることの危険性もさけられます。

転倒防止対策の一例